経済産業省

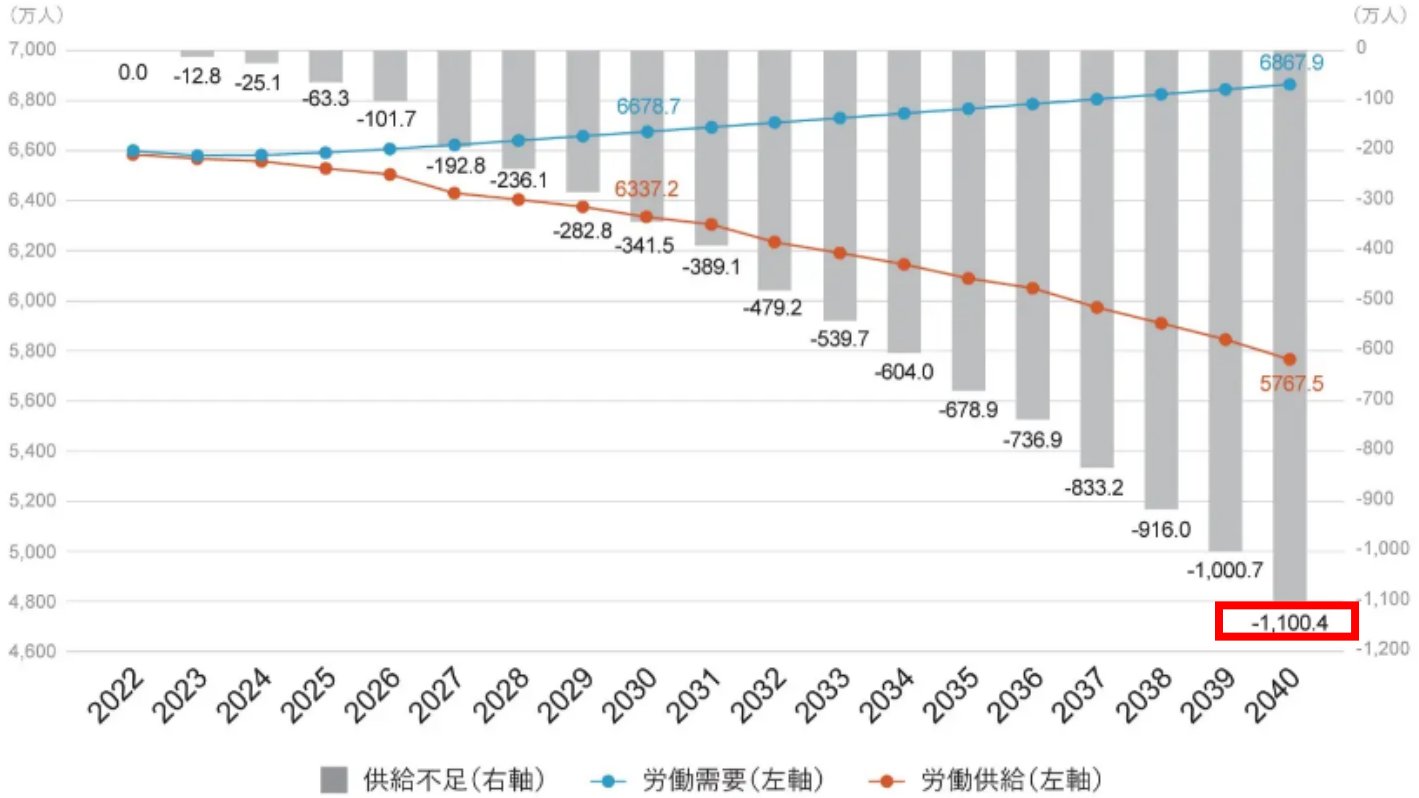
ヘルスケア産業政策を通じた
イノベーションの創出について

経済産業省商務・サービスグループ
ヘルスケア産業課

健康をめぐる社会課題

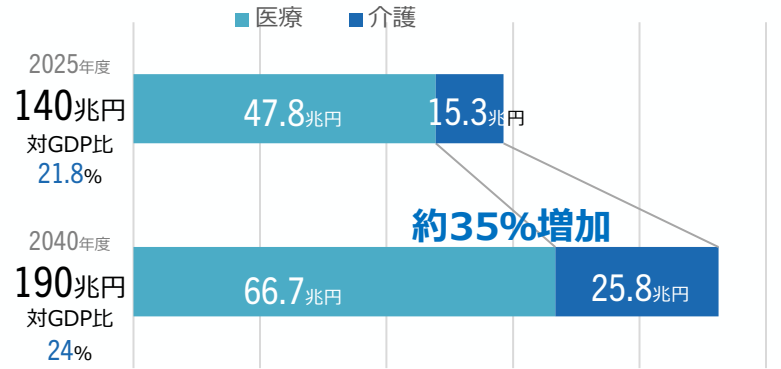
- 少子高齢化により、**2040年には1,100万人の労働力不足、社会保障費の約35%負担増が生じる**と言われている中で、**健康な労働力＝社会保障の担い手の確保**が不可欠。
- また、現在様々な健康課題によって現役世代の生産性の低下や欠勤が生じ、**大きな経済損失が生まれている**。
- **挑戦する人や企業が報われる経済構造への転換**を進めるためには、**①国民の健康寿命延伸、②社会保障の持続可能性の確保、③経済成長の加速を同時達成**することが重要。

労働需給の推移



（出典）リクルートワークス研究所

社会保障費の推移



（出典）内閣官房全世代型社会保障構築本部事務局「基礎資料集」（令和４年３月）

健康課題による経済損失の試算

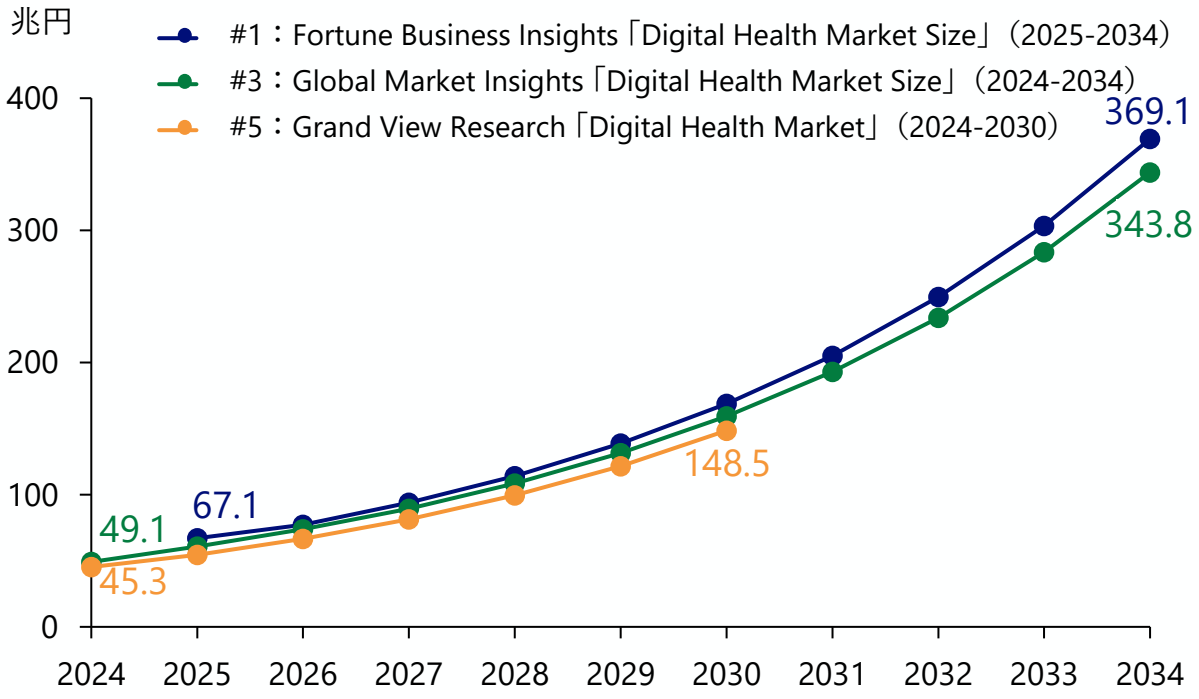
女性の健康課題：約3.4兆円 ※1	**心疾患：約2.8兆円** ※3
メンタルヘルス：約7.6兆円 ※2	**脳血管疾患：約1.9兆円** ※3
がん：約7.4兆円 ※3	

（出典）
※１：令和５年度ヘルスケア産業基盤高度化推進事業(ヘルスケアサービス市場等に係る調査事業)、
※２：Koji Hara「The Impact of Productivity Loss From Presenteeism and Absenteeism on Mental Health in Japan（2022）」、
※３：Koki Hirata「Social burden of three major diseases in Japan: A time trend and future projections using the comprehensive cost of illness method（2023）

ヘルスケア産業による予防・健康づくりの加速

- 予防・健康づくりを進めていくうえで、**ヘルスケアサービスに対する期待が高まっている**。
- デジタルヘルスサービスの世界市場規模は**現在約70兆円**、2034年までに**350兆円規模**に成長することが推測される。

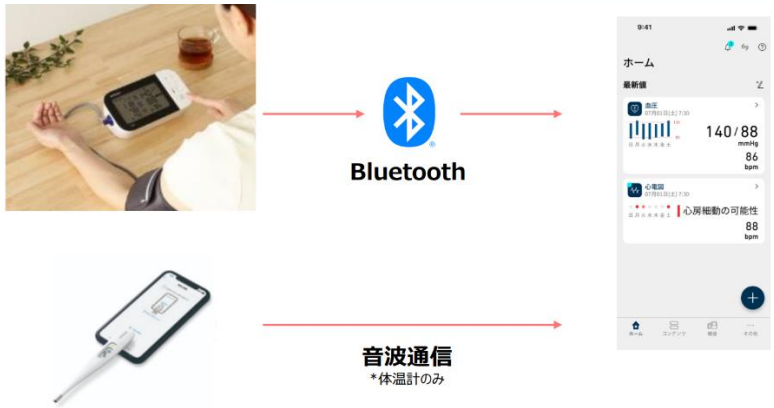
デジタルヘルスグローバル市場規模推計



（出典）Fortune Business Insights「Digital Health Market Size」,
Global Market Insights「Digital Health Market Size」 , Grand View Research「Digital Health Market」

ヘルスケアサービスによる予防・健康づくり

・血圧計や体重計などで測定したデータを、Bluetoothでスマホへ自動転送・記録する**OMRON connect（オムロン コネクト）**は2016年にサービスを開始、他社アプリへデータ連携も主導。



血圧計の売り上げ台数は**4億台**を突破。

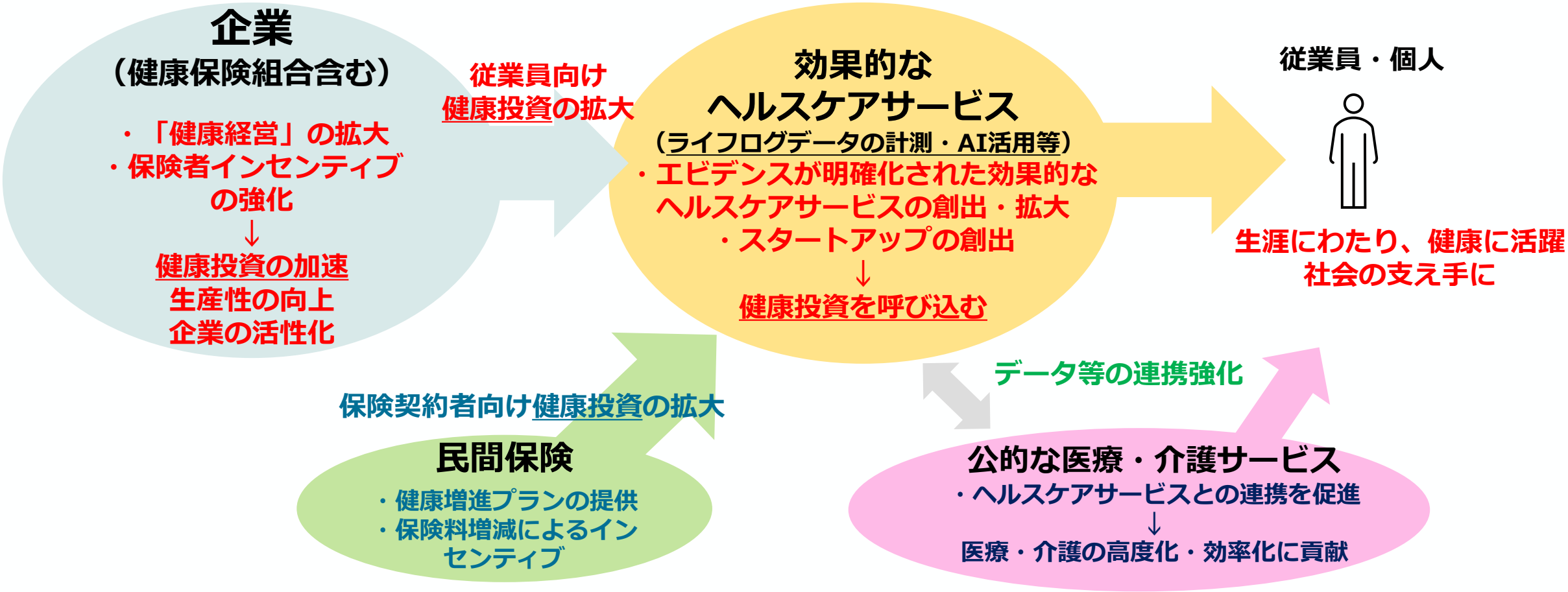
OMRON connect（オムロン コネクト）は**世界137カ国**で配信、ダウンロード数は**1900万以上。**

・**Wellmiraのカロママプラス**は食事、運動、睡眠のデータを記録するとAIがリアルタイムにアドバイスしてくれるアプリで、健康経営銘柄をはじめとする**6000社以上の企業**で導入されているほか、**スーパーマーケットやフィットネス、自治体**においても活用されている。
現在、タイ・マレーシアにおいても実証展開中。



目指すべき全体像

- 国民の予防・健康作りを強化するため、**企業等から健康投資を呼び込み、効果的なヘルスケアサービス市場を創出する**。さらに、**公的な医療・介護サービスにも貢献し、社会保障制度の持続可能性に繋げる**。
- **企業・保険者による健康投資額を2025年の約1兆円から2040年までに約2倍に拡大する**との政府目標を掲げ、需給両面から対策を総動員する。



今後、高齢化が進展し、生活習慣病や社会保障負担が課題となる海外においてもパッケージとして展開

ヘルスケア政策の６つの柱

健康経営の推進

PHR (パーソナルヘルスレコード) を活用した新たなサービス創出

質の高いヘルスケアサービスの創出・振興

介護・認知症等の地域課題への対応

ヘルスケアスタートアップ支援

医療・介護・ヘルスケアの国際展開

質の高いヘルスケアサービスの創出・振興

ヘルスケアサービス提供事業者の声

- ヘルスケア分野では、エビデンスを創出することが、事業リスクの低減にもつながる。**医療従事者が納得できるエビデンスレベルを確保したい**。
- 一方で、エビデンスを創出するためには、10年単位の時間を要する場合もあり、探索的に取り組むには**企業体力が保たない。**エビデンス創出に係る**予見性を高めるためにも、評価基準がほしい。**



事業者A
（運動領域）



事業者B
（フェムテック領域）

- 特に、10代女性（若年層）のヘルスケアの**購入の意思決定**は、友人の勧め、口コミや広告の力だけで購入しており、正確な情報やエビデンスに基づかない場合も多く、**健康被害がおきないか心配**である。
- 事業から得られるデータ等を基に、**エビデンス創出の主体として学会から頼られる存在になりたい。**

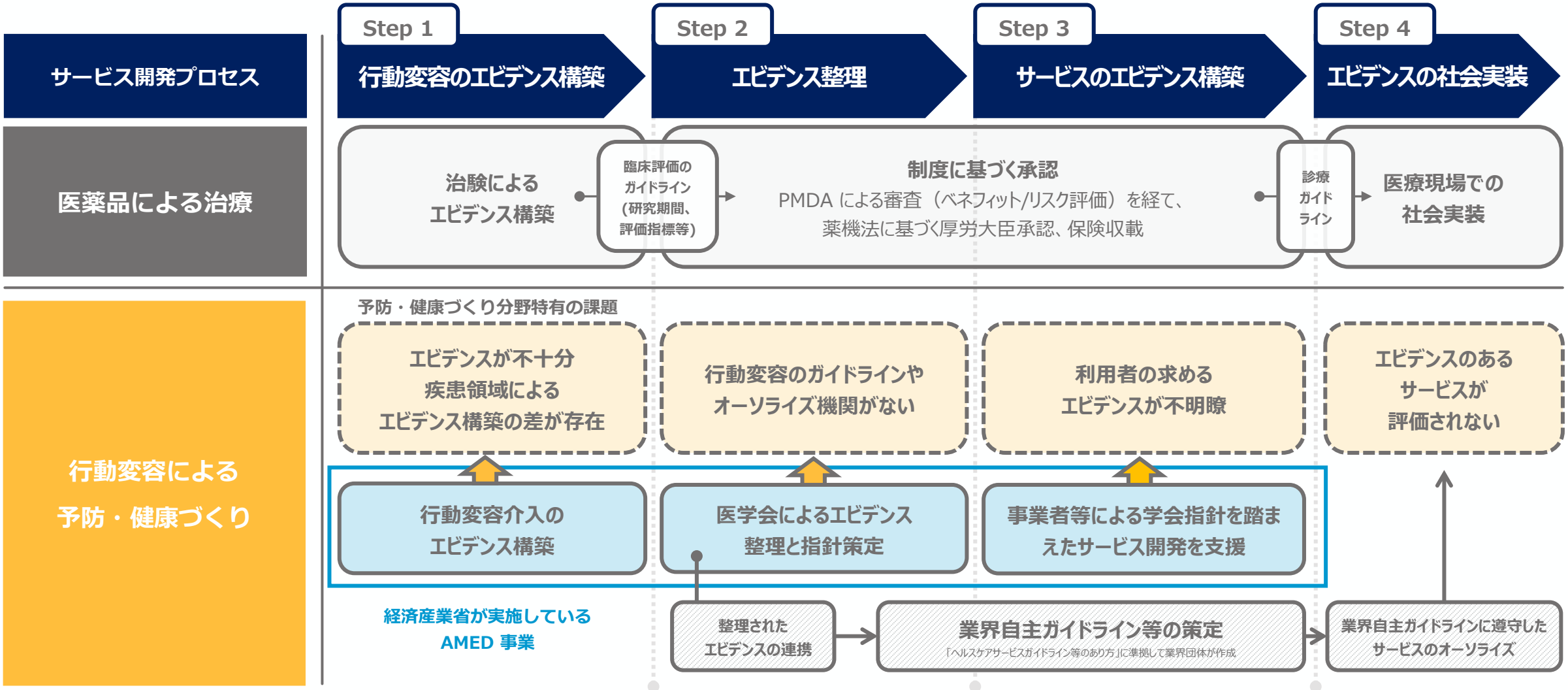
- エビデンスに基づくサービス一覧表のようなものがあると、差異化できて、エビデンスを取り続ける意義を**投資家等に説明しやすい。**



事業者C（スタートアップ、
心の健康保持・増進領域）

ヘルスケア分野におけるエビデンス構築に係る課題

- 行動変容による予防・健康づくりは**民間主導でエビデンス構築が進みにくい**ことや**オーソライズの仕組みが制度化されていないこと**から、科学的有用性が担保されたサービスの社会実装が円滑に進んでいないという課題がある。



予防・健康づくりに関する医学会による指針の策定・普及

「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（ヘルスケア社会実装基盤整備事業）」

- **関連する疾患分野の学会**が、予防・健康づくり領域の重要な課題について、世界中で行われた最新の医学研究の成果を分析・検証し、主たる介入方法の推奨度を取りまとめた「**指針**」を作成している。**サービス事業者は「開発の手引き」**として、**自治体や健康経営に取り組む企業などのサービス利用者はサービス選択時の「指南書」**として活用することを目指す。
- 令和４～６年度にて**一次予防領域の７課題を策定**、令和５～７年度にて**二次・三次予防領域**※の**３課題を策定**、令和８～10年度にて**「睡眠」の指針を策定する。**

領域	指針の名称	中心的学会
成人・中年期の課題	• デジタル技術を活用した血圧管理に関する指針 • 2型糖尿病発症予防を目的としたデジタル技術によるヘルスケアサービスに関する指針 • 慢性腎臓病の発症・進展に関するヘルスケアサービスやデジタル技術介入に関する指針	• 高血圧学会（高血圧） • 糖尿病学会、体力医学会（糖尿病） • 腎臓学会（慢性腎臓病）
老年期の課題	• サルコペニア・フレイルの予防・改善に関するデジタルヘルスのためのガイドライン • ヘルスケアサービス利用者・事業者も使用可能な認知症に対する非薬物療法指針	• 老年医学会、サルコペニア・フレイル学会（サルコペニア・フレイル） • 認知症関連6学会（認知症）
職域の課題	• メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジ予防介入指針 • 働く女性の健康指針	• 産業衛生学会（メンタルヘルス） • 産業衛生学会（女性の健康）
働く世代における二次・三次予防	• 脂肪性肝疾患にともなう動脈硬化性心血管疾患予防のためのヘルスケアサービスの指針 • 循環器病におけるデジタル技術を活用したヘルスケアサービスに関する指針 • 働く女性における月経困難症・月経前症候群・更年期障害予防のための非薬物的ヘルスケアサービスガイド	• 動脈硬化学会（脂肪肝関連疾患） • 循環器学会（循環器疾患） • 女性医学学会（婦人科疾患）

※ 二次予防は既に発症している疾病の早期発見・早期治療に繋げること、三次予防は再発防止や重症化予防、早期の社会生活・職場復帰等を指す

指針の概要

指針の作成プロセス

ヘルスケアクエスチョン（HQ）の設定

HQ：予防・健康づくりの分野で回答を出すべきだと考えられる課題

例「○○のアプローチは□□の予防や改善に有用か？」

システマティックレビュー（エビデンスの量と質の集積度合いを分析）

各HQに関連する研究論文を系統的かつ網羅的に検索・収集・統合

推奨案作成・投票、推奨グレード決定

推奨の解釈

推奨グレード	エビデンス	解釈
1. 行うことを**強く推奨**する	**強固なレベル**	医学会として取り組むことを推奨
2. 行うことを**提案**する	**一定のレベル**	
3. 行わないことを提案する	-	予防・健康づくりではほとんどない
4. 行わないことを強く推奨する	-	
5. エビデンス不十分のため推奨を**保留**	今後に期待	**FRQ*** を提示

パブリックコメント（意見公募）

指針の完成、公開・維持更新

FRQ (Future Research Question) の例

【高血圧】

さまざまなウェアラブルデバイスを装着し，ヘルスケアプロバイダーからフィードバックを受ける介入は，成人の血圧に有益な効果をもたらすか？

→ ウェアラブルデバイス装着にフィードバックやゲーミフィケーションなどの要素を取り入れたアプリを併用するような、間接的な介入の効果についても新たなエビデンス構築が求められている。

【糖尿病】

デジタル技術によるヘルスケアサービスは、ウエストや血圧や脂質など、他 の動脈硬化のリスク因子を改善させるのか？

→ デジタル技術によるヘルスケアサービスは、ウエスト周囲長の減少が認められたが、血圧や脂質代謝の改善効果は一貫しておらず、新たなデジタル技術によるエビデンス構築が求められている。

【メンタルヘルス】

B to B to Cスタイルに応じたサービス及び製品開発の必要性

→ 実際の使用状況や動向を定期的に把握した上で、サービス・製品開発や行政施策に活かすことが必要である。

Future Research Question は現状で不足しているエビデンスを明確化するものであり、将来的に新たなサービスの開発につながる可能性がある。

* FRQ ：エビデンスが十分でない場合、学会として今後エビデンス構築が必要だと考える課題を Future Research Question (FRQ) として提示する。

予防・健康づくりに関するエビデンス構築

指針づくりでエビデンスが不足していることが分かった Question のエビデンス構築をするために、Step1に立ち返る。

「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（ヘルスケア社会実装基盤整備事業）」

これまで医学会にて策定してきた指針に基づき、さらに解決すべき課題（FRQ: future research question）に注目し、特にデジタル技術を活用した行動変容介入のエビデンス構築を目指す（実施期間：令和 7 ~ 9 年度）。

領域	研究開発課題名	代表者	所属機関
成人期の課題	2型糖尿病高リスク者を対象とした持続血糖モニタリング機能とAIを活用した2型糖尿病発症予防アプリシステムの有効性検証とエビデンス構築	曽根 博仁	国立大学法人新潟大学
	慢性腎臓病発症・進展予防に向けたデジタル行動変容エビデンス創出プラットフォームの開発	福間 真悟	国立大学法人広島大学
老年期の課題	プレフレイル・フレイル者のウェアラブルデバイス利用による行動変容と健康アウトカムへの改善効果の検証―無作為化比較対照試験	大渕 修一	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）
職域の課題	職域における認知行動変容アプローチの検証と実装：AIを活用したデジタルメンタルヘルス支援システム（KOKOROBO）のランダム化比較試験と普及モデルの構築	久我 弘典	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
	働く女性の更年期の不眠症状緩和を目的としたデジタル技術の社会実装に向けた研究	野村 恭子	国立大学法人秋田大学

https://www.amed.go.jp/koubo/12/02/1202B_00051.html

予防・健康づくりに関するエビデンス構築

指針づくりでエビデンスが不足していることが分かった Question のエビデンス構築をするために、Step1に立ち返る。

「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（ヘルスケア社会実装基盤整備事業）」

これまで医学会にて策定してきた指針に基づき、さらに解決すべき課題（FRQ: future research question）に注目するとともに、将来的に医学会指針に取り込まれることを見据えた行動変容介入のエビデンス構築を目指す。（実施期間：令和 8 ~ 10 年度）

既存指針更新に資するエビデンス構築分野

領域	研究開発課題名	代表者	所属機関
成人期の課題	家庭血圧測定およびPHRを活用したデジタル行動変容介入による心血管・腎アウトカム改善に関する大規模ランダム化比較試験と指針更新に資する研究開発	有馬 久富	福岡大学
老年期の課題	サルコペニアスペクトラムにおける歩行キネティクス評価とロボット介入による予防効果のエビデンス構築	内富 寛隆	東京科学大学
	通いの場機能を備えたmHealthアプリによるフレイル改善の長期効果の検証：多施設ランダム化比較試験	笹井 浩行	東京都健康長寿医療センター
	対話型AIロボットを用いたフレイル・サルコペニア予防の個別最適化行動変容介入の開発と効果検証	島田 裕之	国立長寿医療研究センター
職域の課題	機械学習による最適化マッチングを用いた、更年期症状を有する女性に対するオンラインピアカウンセリングの有効性の検証	内富 庸介	東京慈恵会医科大学
	職域における行動変容促進型マインドフルネスアプリのwellbeing, 労働生産性および経済効果の検証：ランダム化比較試験と普及モデルの開発	佐渡 充洋	慶應義塾大学

指針策定を見据えた生活習慣関連エビデンス構築分野（睡眠、運動等）

領域	研究開発課題名	代表者	所属機関
睡眠	睡眠スクリーニングを起点とした多段階行動変容支援による生活習慣病予防導線の構築に関する研究	今泉 貴広	名古屋大学
歯科口腔	生涯にわたる適切な咀嚼に関する指針づくり	堀 一浩	新潟大学

https://www.amed.go.jp/koubo/03002/02/C_00003.html

予防・健康づくりに関するサービスのエビデンス構築

「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（ヘルスケアサービス実用化研究事業）」

予防・健康づくりの社会実装に向けて、エビデンスを備えたヘルスケアサービスのモデルケース創出を目指す。

（実施期間：令和 7 ～ 9 年度）

領域	研究開発課題名	代表者	所属機関
成人期の課題	保健指導DXによる生活習慣病予防の高度化・実用化に関する研究 開発	野尻 哲也	株式会社おいしい健康
職域の課題	子育て認知行動療法によるASDリスク児への早期予防介入の研究開発	太田 英伸	秋田大学
	ウェアラブルデバイスのデータからメンタルヘルス不調を防ぐための個人にとって最適な行動変容提案技術の開発（※）	岸本 泰士郎	慶應義塾大学
	患者一人ひとりに最適な外来がん薬物療法の実現：PHRを用いた　個別化モニタリング・フォローアップサービスの研究開発	竹部 亨	株式会社カケハシ
	大規模臨床試験でエビデンスを確立したスマートフォン認知行動療法アプリをスケールアップし国民のレジリエンスを向上させるサービスの社会実装開発研究（TASSO研究）（※）	古川 壽亮	京都大学
	スマートリングを用いた睡眠への個人適合化介入による労働生産性向上効果の実証研究	渡邉 達彦	株式会社SOXAI

（※） 研究期間：令和 7 ～ 8 年度

https://www.amed.go.jp/koubo/12/02/1202C_00050.html

予防・健康づくりに関するサービスのエビデンス構築

「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（ヘルスケアサービス実用化研究事業）」

- 一定の有用性が示唆されているヘルスケアサービスであって、社会実装に向けた実証研究を実施するための科学的エビデンスが十分でないものについて、社会実装を見据え、必要な科学的エビデンスの 構築・強化を支援する（実施期間：令和 8 ～ 8 年度末）。

分野1　予防・健康づくりに資するサービスの実用化に向けた研究開発

領域	研究開発課題名	代表者	所属機関
【エビデンス強化】 高齢者ウェルビーイング分野	参加型開発に基づくPHR統合型AI仮想リンクワーカーによる高齢者の孤立低減と社会的処方の社会実装に関する研究	オガワ 淑水	東北大学
【エビデンス強化】 職域関連分野	働く人のメンタル不調予防に資する価値に基づく行動を促す認知行動的アプローチによるハイブリッド型デジタル介入の社会実装に向けたエビデンス強化研究（WAVE研究）	高階 光梨	株式会社Awarefy
	職域における生活習慣病リスクを高める飲酒の改善を目的とした「産業保健AI対話支援アプリ」の科学的エビデンスの構築・強化に関する研究開発	新田 千枝	筑波大学
	学校現場における教員の心身の健康保持に資する行動活性化アプリ（BEARS）のエビデンス強化に関する研究	宮崎 智之	横浜市立大学

https://www.amed.go.jp/koubo/03002/02/C_00004.html

予防・健康づくりに関するサービスのエビデンス構築

「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（ヘルスケアサービス実用化研究事業）」

- 上市につながるプロセスをAMEDのPSPO体制などからの支援及びビジネス化についての共同研究機関と連携して進める。
- 事業終了時までに、PSPO およびビジネスエキスパートからの支援を通じて得られた知見を踏まえ、今後の市場調査、ビジネス展開及び社会実装に向けた研究デザインを自律的に立案・推進できる体制を構築することを求める。

（実施期間：令和 8 ～ 10 年度末）

分野1　予防・健康づくりに資するサービスの実用化に向けた研究開発

領域	研究開発課題名	代表者	所属機関
【実用化実証】 高齢者 ウェルビーイング分野	AIラジオを活用した認知機能低下予防と高齢者の孤独感解消の実証研究開発	小川 誠	テオリア・テクノロジーズ株式会社
	高齢者の便秘改善・QOL向上を目指した腸音解析ヘルスケアサービスの実用化研究	金川 典正	腸note株式会社
	能動型AIコンシェルジュによるSNSでの社会的交流促進が高齢者の主観的ウェルビーイングに及ぼす影響の検証と実用化実証研究	河合 恒	東京都健康 長寿医療センター
【実用化実証】 職域関連分野	個別化健康行動レコメンドの社会実装に関する研究開発	鈴木 雅	DeSCヘルスケア株式会社
	郵送尿検査とAI個別最適化介入を統合した、自治体・職域連携による減塩行動変容プラットフォームの構築と実証	瀧本 陽介	株式会社ヘルスケアシステムズ

https://www.amed.go.jp/koubo/03002/02/C_00004.html

予防・健康づくりに関するサービスのエビデンス構築

「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（ヘルスケアサービス実用化研究事業）」

- 主に医療機関などにおいて利活用されるヘルスケアサービスの実用化の更なる推進を支援する。
- 対象とするサービスは、多様な PHR 等を記録・管理・共有できるアプリケーション及び医療・介護現場等においてPHR等を閲覧可能なシステムを備え、既に医療・介護現場等の実環境での導入・稼働実績を有するものとする。

（実施期間：令和 8 ～ 10 年度末）

分野2　医療機関などでの活用を目指したサービスの実用化に向けた研究開発

領域	研究開発課題名	代表者	所属機関
高齢者 ウェルビーイング分野	PHRを活用した介護支援のQOLおよび経済性に関する有用性評価	阿野 泰久	エーザイ株式会社
生活習慣病 関連分野	健康管理アプリケーション（カロママプラス）のブラッシュアップおよびそれを用いたCKD重症化予防プログラムに関する研究開発	淺沼 克彦	千葉大学
	PHR活用型心不全管理サービスの医療提供体制への導入実用化に向けた研究	土肥 薫	三重大学
	IoTウェアラブル連動型脈拍ベース運動支援アプリによる心臓リハビリ業務効率化と医療機関の収益増―心血管疾患の再発・重症化予防から職域生活習慣病予防への展開―	野口 暉夫	国立循環器病研究センター

https://www.amed.go.jp/koubo/03002/02/C_00004.html

質が担保されたヘルスケアサービスのリスト化

攻めの予防医療に向けた性差に由来するヘルスケアに関する副大臣等会議における論点整理（抜粋）

⑤攻めの予防医療に向けたヘルスケア産業の育成

○**一定の質が担保されたヘルスケアサービスの活用促進に向けて、**女性の健康に係るヘルスケアサービス等についても、**リスト化と選択ツールの整備が重要。**さらに、それを健康経営や保健事業、民間の健康増進型保険等へ組み込むことで、**企業・保険者がサービスの効果を的確に評価した上でサービスを選択できる環境を整備**する必要がある。

日本成長戦略【創薬・先端医療】官民投資ロードマップ（抜粋）

（２）講じるべき政策パッケージ

- 経済損失の大きい性差に基づく健康課題等に対し、**一定の質を担保したヘルスケアサービスのリストを創出**する。

事業紹介・成果物公開ウェブサイト

E-LIFEヘルスケアナビ

- 本事業の概要・目的 / 指針と解説動画の成果物を公開







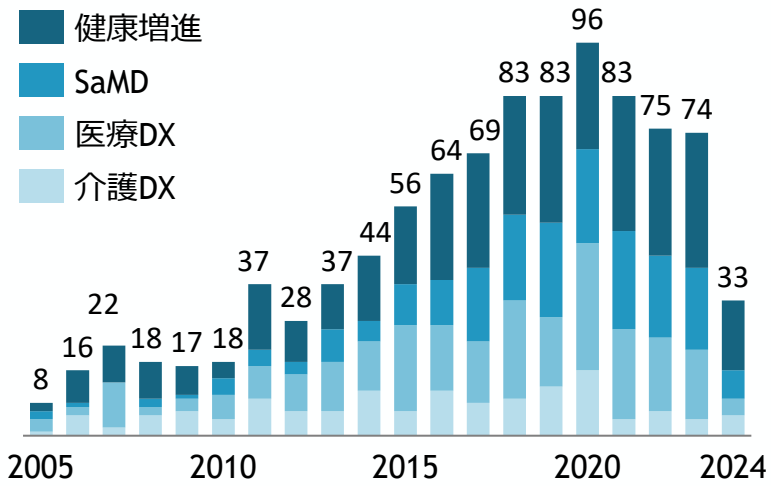
https://healthcare-service.amed.go.jp/

ヘルスケアスタートアップ支援

ヘルスケアスタートアップの現状と課題

- ヘルスケアスタートアップへの支援として、経産省ではワンストップ相談窓口（Healthcare Innovation Hub）の運営やビジネスコンテストの開催等、**「コミュニティの拡大」に重きを置いた施策をこれまで実施してきた**。
- スタートアップの「数」自体は増加する一方、**スケール化や適切なエグジットには課題を抱えている状況**。

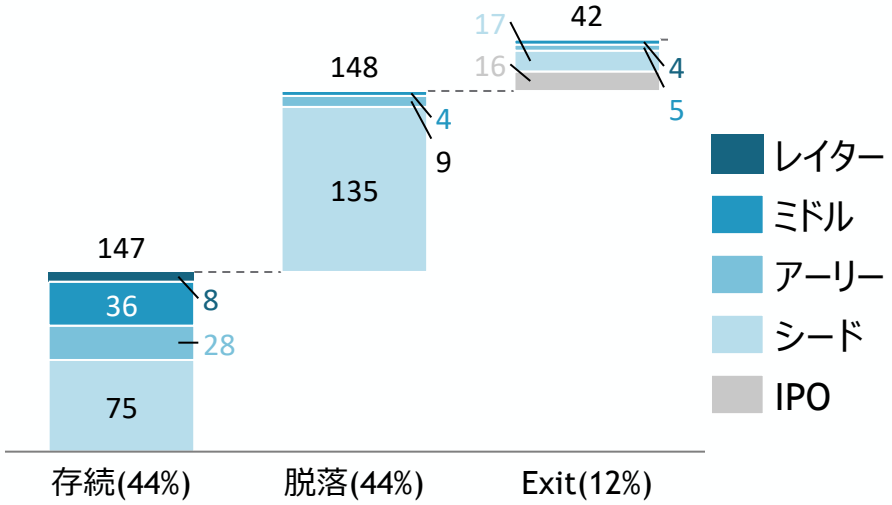
設立年別スタートアップ数



スピーダ　スタートアップ情報リサーチ、ISSP(2021)、Statista(2023年第3四半期)より。2024年は同年11月時点の数値。

- 2010年以降、ヘルスケアスタートアップの数は堅調に増加。

2010-2015年設立のヘルスケアスタートアップの状況（社数）



スピーダ スタートアップ情報リサーチより。Exitでシリーズの分類があるものはM&Aの対象となったスタートアップを指す，ミドルはシリーズB，C，レイターはシリーズD以降と定義。

- IPOやM＆Aを果たせないスタートアップも一定数存在。新たな挑戦ができず、投資家のリターンも期待できない状況が続く。

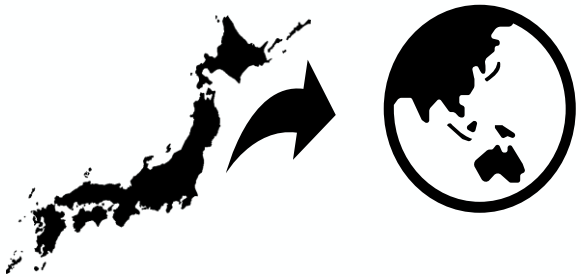
ヘルスケアスタートアップエコシステム構築に向けた経済産業省の取組

- 更なる成長のためのヘルスケアスタートアップエコシステムの課題として、**エビデンス構築のための実証フィールドへのアクセス、事業拡大に向けた海外市場獲得**等が挙げられる。
- ①**Healthcare Innovation Hubを通じた相談対応**や**イベント開催**を通じて裾野拡大・コミュニティの成熟を引き続き目指すとともに、②国内においてはエビデンス構築・社会実装を支援するための**地域拠点の整備や事業会社との連携の促進**、③海外展開については**アクセラレーター等と連携した派遣プログラムの提供**等を実施し、成長を後押しする。

②国内エコシステムの強化

産官学医が連携した地域拠点 × 日本のヘルスケアSU × 事業会社

- ヘルスケアスタートアップの社会実装を推進する拠点を国内数か所選定し、実証フィールドとのマッチング等を支援
- スタートアップが適切に成長・EXITするよう、事業会社との間の連携・出資・買収を促進



③海外展開支援

国内アドバイザー・海外アクセラレーター × 日本のヘルスケアSU

- 専門家が戦略的な事業計画等の助言を行うなどの伴走支援を令和8年度より強化
- 海外の医療機関やアクセラレーター等と連携し、日本のヘルスケアスタートアップの海外派遣プログラムを提供

①Healthcare Innovation Hub（通称：InnoHub/イノハブ）

- ヘルスケアスタートアップへの支援やイノベーションの創出・活性化を目的に、スタートアップに加えて、企業の新規事業部門など、イノベーションを必要とする多様な団体から幅広く相談を受付
- 主催イベントを通じて、スタートアップ、大企業、VC、医療機関、アカデミアのネットワーキングの促進、業界課題に関するディスカッションを通じてエコシステム強化を実施する

Healthcare Innovation Hub（通称：InnoHub/イノハブ）

- 2019年7月に設立し、ヘルスケアスタートアップへの支援やイノベーションの創出・活性化を目的に、スタートアップに加えて、企業の新規事業部門など、イノベーションを必要とする多様な団体から幅広く相談を受付。
- ベンチャー支援を行う同分野の事業会社等（サポーター団体）やベンチャー企業等の支援者（イノハブアドバイザー）と連携し、国内外のネットワークを活用して、事業化相談やネットワーク形成を支援。
- 本事業により、ヘルスケア・ライフサイエンス分野のベンチャーエコシステムの構築を目指す。

＜相談等実績＞
令和7年度相談　**105**件
累計相談　**846**件
サポーター団体 **292**団体
アドバイザー **22**名
※2026年3月時点

様々な方にご利用いただいています

相談者

- スタートアップ
- 大企業の新規事業部門
- 大学研究室・学生
- 起業構想段階の方

相談

支援

無料で相談にのります

ワンストップ窓口　InnoHub Healthcare Innovation Hub

- 事業内容・構想の壁打ち
- アドバイザー・サポーターとのマッチング
- 国・自治体の補助金、サポートの紹介
- ネットワーク、イベントの紹介

相談者の紹介・マッチング

相談

経験豊富な

サポーター・アドバイザー

サポーター団体

実証や事業拡大の支援、業界知見のシェア

- 病院、介護施設
- 自治体、政府機関
- 製薬会社、医療機器メーカー
- 保険、金融、ベンチャーキャピタル
- 商社、物流、その他メーカー

アドバイザー

ビジネスモデルや資金調達に関するアドバイス

- ヘルスケア起業家
- 海外事業経験者
- 医師、看護師
- 弁護士、会計士、弁理士
- ベンチャーキャピタル代表

（参考）InnoHub関連イベントの実施（2025年度）

- 2025年度、InnoHubでは、ヘルスケアスタートアップの社会実装や事業連携を促進するため、関係団体と連携したイベントを開催し、スタートアップ、事業会社、VC、アカデミア等の関係者間のネットワーク形成及びコミュニティの拡充を図った。イベントを通じて分野横断的な連携の促進や新たな事業連携の創出等、ヘルスケアイノベーションエコシステムの形成に資するものとなった。

10月：FCJ連携イベント





テーマ フェムテック導入の先へ～女性の健康サービスを“成果”に変える～

日時： 2025年10月30日（木）15:00～17:30
会場： Tokyo Innovation Base（1階）
主催： 一般社団法人ウィメンズヘルス・イノベーション協会
（旧：Femtech Community Japan ）

女性の健康サービスの導入を企業の成果や社会的価値につなげるための取組について、企業、医療・アカデミア、VCなど多様な立場から議論を行い、クロスセクター連携の重要性や導入における課題等について意見交換を実施した。会場・オンラインのハイブリッド形式で開催し、ネットワーキングも含め、関係者間の連携を深めるイベントとなった。

2月：JHIH連携イベント





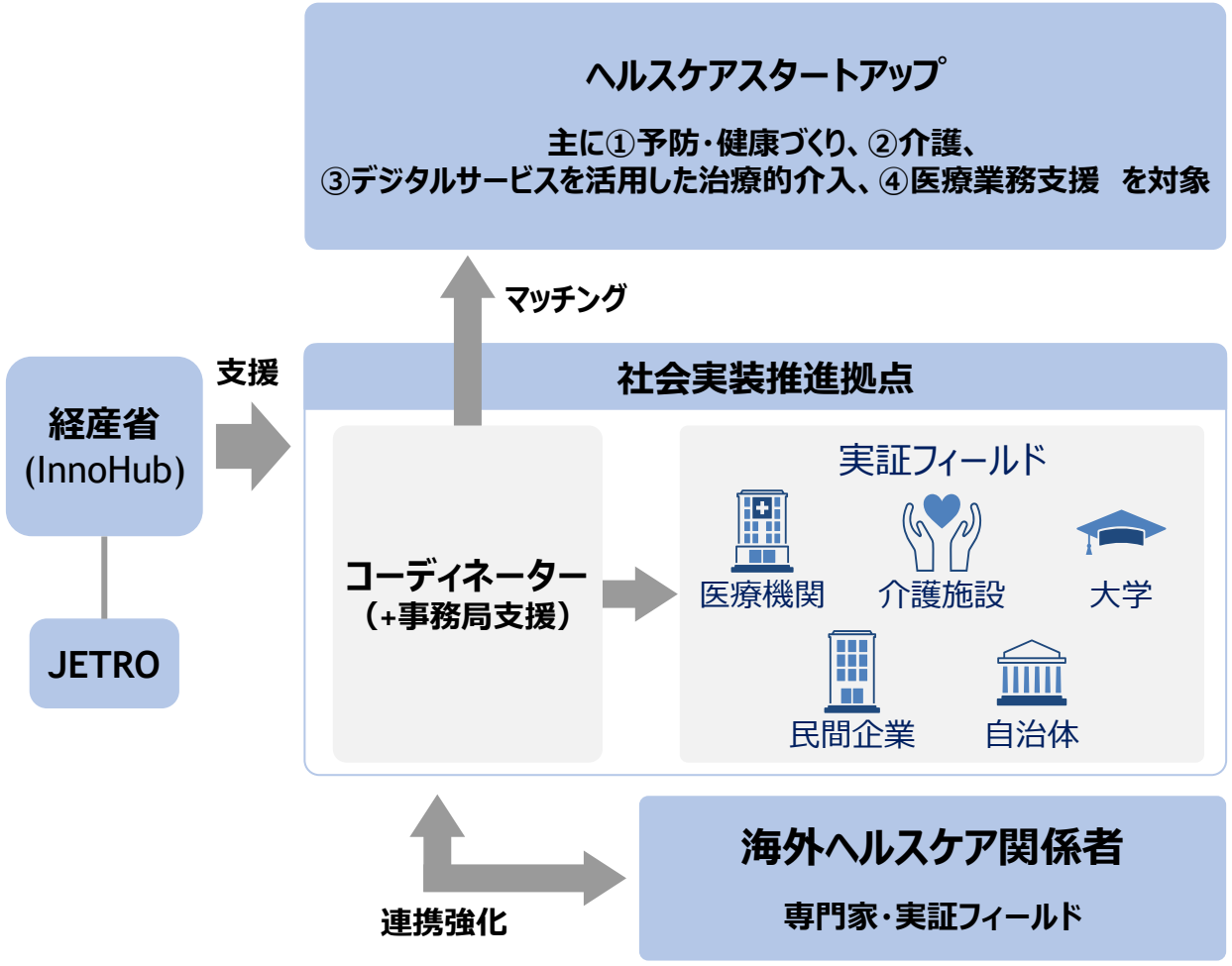
テーマ ヘルスケアスタートアップのスケールとインパクト

日時： 2026年2月23日（月・祝）15:00～18:00
会場： Tokyo Innovation Base（2階）
主催： 経済産業省×一般社団法人Japan Healthcare Innovation Hub

経済産業省はJHIHと共同で「イノベーションハブサミット2026」を開催した。「ヘルスケアスタートアップはどのようにスケールし、インパクトを出すのか」「対価を得られるレベルの価値をどのように生み出し事業を回すのか」この問いに、事業家、VC、そして省庁の担当者がそれぞれの立場から向き合った、100人を超える参加者と集め、講演後のネットワーキングも盛況に終わり業界との関係を深める密度の高いイベントとなった。

ヘルスケアスタートアップ社会実装推進拠点について

- ヘルスケアスタートアップへのエビデンス構築、実証フィールドマッチング支援といった社会実装支援を重点的に実施する拠点として、R6年度に愛知、仙台、九州の３拠点を選定。拠点の自走化に向けて、R9年度まで継続支援する予定。
- 拠点に対しては、①国内活動支援（拠点のコーディネーターの人件費、InnoHubネットワーク提供 等）、②海外活動支援（JETROを通じた支援等）を実施。



	愛知県 MAKE NEW STANDARDS. 東海国立大学機構	仙台市 ReGACY Innovation Group.	九州 HAMIQ The organization to promote the Health-care And Medical device Industry in K(Q)yushu 九州ヘルスケア産業推進協議会
支援対象/領域	• 高齢化・少子化対策 • シード期～社会実装	• 地域医療、デジタル・AI • Seed～Series A	• 介護の機器、サービス • 製品・サービス企画～実証・検証～販路支援～海外展開
連携体制	• 自治体 • STATION Ai • 企業 (富士通、沢井製薬) 等	• 仙台市 • 東北大学 • 仙台市産業振興事業団 • 仙台スタートアップスタジオ	• 九州全域の自治体 • 大学（九州大学、九州工業大学） • 医療機関等
特徴/進捗状況	• 東海地域におけるビッグデータ活用とエビデンス創出 • R7：拠点の基盤整備・体制構築が概ね完了し、国内・海外とのネットワークを形成 • R8：自走化モデルの具体化及び海外展開の実装フェーズへ	• 医師会および地域医療機関と連携したガイドライン作成と実証 • R7：先行事例の創出や外部発信開始等、拠点運営モデルを構築 • R8：持続的運営に向けた体制・財源の具体化、仙台市主体の運営体制への移行へ	• 11年の経験と数十社の実績を持つ「HAMIQ」の支援体制 • R7：豊富な施設ネットワークを生かした実証等支援を実施 • R8：スタートアップ支援経験が豊富なSEREAL社が参画し体制強化

海外機関やアクセラレーターと連携した支援プログラム

- JETROでは、R2年度から起業家等を海外に派遣するプログラムとして、J-StarXを実施。中でも、R6年度からは、特に**医療・ヘルスケア分野のスタートアップの海外進出を強力に支援するアクセラレーションプログラム**を展開し、2年間で約60社を支援。今年度は米国・英国でのプログラムを実施。
- 目的としては、我が国のヘルステックスタートアップが以下を実現することである。
  - プログラムを通じて**国ごとに異なる規制や市場参入に必要な知識習得・戦略策定を支援**すること
  - 専門家による一歩踏み込んだアドバイスや**現地医療機関・KOL・VC等との接続**を得ること
  - **将来的な海外薬事承認取得に向けたエビデンス構築やサービス・プロダクトの向上をサポート**すること

（例）2025年度プログラム

AI Medicalコース（アメリカ ミネソタ州）

- **米国ヘルスケア市場参入に向けた知識習得、ビジネスディベロップメント、コネクション形成**を支援
- 基礎プログラムであるフェーズ１では、レクチャーにより米国ヘルスケア市場参入に向けた基礎知識のインプットを実施するとともに、**米国最大級の患者データ・ネットワーク等を有するMayo Clinicを訪問し、ネットワーク機会や投資家とのディスカッション機会を提供**
- フェーズ2では、Mayoと連携して**医療データアクセスとAIモデル開発検証の機会を提供**

参加企業（例）

NeoCure　Precision Imaging　Xcoo　【ténku:】　YOBO

Medtechコース（オーストラリア）

- **アジア太平洋地域の医療・ヘルスケアスタートアップのグローバル展開を支援するMedtech Actuator社**（オーストラリア）の協力の下、以下２フェーズを実施
- フェーズ１ **集中講義・渡航プログラム**：事業成長に必要な市場進出戦略等に対する理解を深めた後、現地の大学・病院等を訪問し、人脈形成を図る
- フェーズ２ **メンタリング・渡航プログラム**：フェーズ１から選抜された企業に対し、各分野の専門家によるメンタリングを行い、現地ピッチイベント等への参加を支援

参加企業（例）

BiPSEE　ekei　FerroptoCure　MY ROBOTS　Splink,inc.　PaMeLa　ViveSpoon

（参考）ヘルスケアスタートアップと事業会社間の連携・出資・買収のための手引書

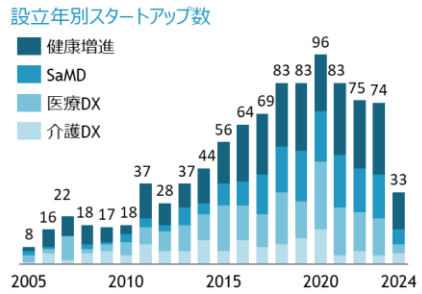
- ヘルスケアサービスの社会実装に向けて、**スタートアップが適切に成長・エグジットするためには、事業会社との連携が重要**であり、スタートアップと事業会社間の連携・出資・買収を促進するための手引書を2025年3月に策定・公表。
- ヘルスケアスタートアップ及び当該スタートアップとの連携・出資・買収を検討する事業会社を想定読者とし、ヘルスケア業界に関する基本的な市場環境や、ビジネス領域ごとの課題について、グローバルな視点も交えてまとめたもの。



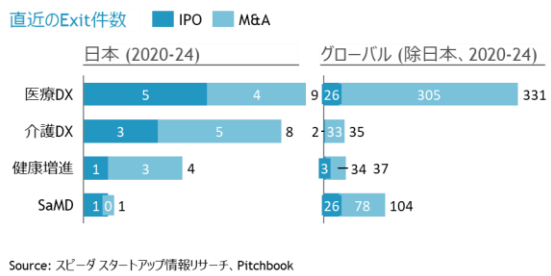
手引書の主な内容

- ヘルスケアスタートアップの特徴・課題の整理
  ➤市場参入状況やヘルスケアスタートアップが抱える特有の悩みを整理
- ヘルスケアスタートアップの資金調達状況の分析
  ➤日本とグローバルの資金調達環境等を分析しつつ、潮流を読み解く
- ヘルスケアスタートアップのエグジット準備に係るチェックリスト
  ➤SUがエグジットを成功させるために確認・検討すべき事項を整理
- 出資・買収に係るチェックリスト
  ➤SUへの出資・買収を進める際の確認すべき事項や視点を整理
- ビジネス領域・ステージ特有の課題
  ➤ヘルスケアスタートアップが成長戦略を描く際の課題と打ち手を整理

本手引書のダウンロードは
こちらから



Note: 2024年は2024年11月時点の数値
Source: スピーダ スタートアップ情報リサーチ、ISSP(2021)、Statista(2023年第3四半期)



Source: スピーダ スタートアップ情報リサーチ、Pitchbook

InnoHub Frontierについて

InnoHub

ヘルスケアスタートアップ向け 海外展開支援プログラム ～InnoHub Frontier～公開セミナー開催

米国のヘルスケアスタートアップのビジネスモデルや背景にある保険制度等について、「型」を学ぶ

第1回は10月8日(木)16:30～（全4回）

参加無料

全4回のセミナーを通して、ヘルスケアスタートアップが米国に展開するに当たり必要な知見の獲得を目指します。

第1回：**米国ヘルスケアスタートアップのビジネスモデル①／類型概観**
第2回：**米国ヘルスケアスタートアップのビジネスモデル②／保険制度の観点から**
第3回：**エビデンス構築の基礎**
第4回：**英文ピッチデック資料の作り方**

対象者

- ヘルスケア領域のスタートアップ関係者
- 起業を検討中の研究者
- スタートアップの支援者、大学関係者

申込み

https://forms.cloud.microsoft/e/3x8qXZJiyb

お申込みはこちら

第1回：米国ヘルスケアスタートアップのビジネスモデル①／類型概観

- 日時：10月8日（木）16:30～18:00
- 場所：新東京ビル8階（東京都千代田区）およびオンライン
- 講師：Kicker Ventures, Founder & Managing Partner 清峰氏

第2回：米国ヘルスケアスタートアップのビジネスモデル②／保険制度の観点から

- 日時：10月23日（金）10:30～12:00
- 場所：オンライン
- 講師：米国最大級の医療保険グループにおける事業開発の専門家 Gregg氏

第3回：エビデンス構築の基礎

- 日時：10月30日（金）18:30～20:00
- 場所：オンライン
- 講師：株式会社JMDC執行役員 米倉氏 および株式会社Splink代表取締役社長 青山氏　（予定）

第4回：英文ピッチデック資料の作り方

- 日時：11月5日（木）9:30～11:00
- 場所：オンライン
- 講師：Kicker Ventures, Founder & Managing Partner 清峰氏

経済産業省

ご清聴、ありがとうございました。